四十二

立案	昭和廿年六月七日
決裁	昭和　年　月　日

宗秩寮總裁

宮内事務官

爵位課長

故槇哲位記追賜ノ件

昭和廿年六月七日裁可
臺帳記入　六月八日官報報告濟

昭和廿年六月七日發令

宮内省

丙　昭和廿年六月八日

317

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

故槇哲位記追賜ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十四年六月七日

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎

内閣

318

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

拓位第三八四號

起案	昭和十四年六月九日	裁可	昭和十四年六月七日	施行	昭和　年　月　日
		決定	昭和　年　月　日		

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

故槇哲ハ別紙拓務大臣稟請ノ通功績顯著ナル者ニ候處客月三十日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通位記追賜ノ件上奏相成然ルヘシ

故　槇　哲

内閣

特旨ヲ以テ位記ヲ追賜セラル

槇　哲

敍正六位

五月三十日付

本件ハ特ニ急ヲ要シ候ニ付至急（本日付）

發令方御取計相成度　内閣

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内閣 拓務第三八四号

官秘第一、八三六號

昭和十四年六月五日

拓務大臣　小磯國昭

内閣總理大臣　男爵　平沼騏一郎殿

横濱市神奈川區淺間第八番地

故　槇　哲

叙正六位

右者明治三十九年五月渡臺本島人組合組織ナル塩水港製糖ノ支配人トシテ入社、同四十年同社ヲ株式組織トシ取締役ニ就任、大正六年塩水港製糖株式會社取締役社長ニ就任、以來糖業界ニ在ルコト三十有餘年ニ及ビ其ノ間當時人跡稀ニシテ不毛ノ地ナリシ東臺灣ノ開拓並ニ私財ヲ投シテ西沙島及新南群島ノ開發ニ努メ又常ニ糖業改良向上ニ一意專心シ再製白糖ノ先覺者トシテ本島糖業界ニ貢獻シタル功績又甚大ナリ、尚今次事變勃發スルヤ逸早ク當局燃料國策ニ順應シ無水酒精工場ヲ設立シ又新日本砂糖工業株式會社ヲ創設シパルプ事業ヲ起ス等常ニ本島産業ノ開發ニ盡瘁シ統治上功績洵ニ顯著ナルモノアル處病氣ノタメ五月三十日死亡セルニ付テハ同人生前ノ功績ニ鑑ミ特ニ生前ノ日附ヲ以テ頭書ノ通叙位ノ儀臺灣總督ヨリ申越ノ次第モ有之候條御詮議相仰度別紙功績調書

拓務省

上奏書用紙（明界倉納）

（日本標準規格 B.4）

320

及履歴書等相添へ此段及稟請候也

拓務省

上奏書用紙（明昇舎納）
（日本標準規格 B.4）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

功績調書

拓務省

故塩水港製糖株式會社取締役社長　槇　哲

慶應二年十一月舊長岡藩士槇小太郎ノ次男ニ生レ明治二十三年慶應義塾別科ヲ卒業同三十九年五月渡臺本島人ノ組合組織ニナル塩水港製糖ノ支配人トシテ入社シ當時事業ノ難況タル同社ノ經營ニ任シタルモ臺灣糖業ノ國家的事業ニシテ内地資本トノ結合ノ急務ナルヲ認識シ在京實業家ト相謀リ資本金五百萬圓ヲ以テ塩水港製糖會社ヲ創設自ラ常務取締役トナリ專ラ其ノ事業ノ局ニ當レリ續イテ同四十三年當時人跡稀ニシテ不毛ノ地ナリシ花蓮港臺東廳下ノ開拓ニ志シ臺東拓殖合資會社ヲ設立其ノ事業ノ進捗ニ伴ヒ大正元年組織ヲ改メ臺東拓殖製糖會社トシテ益々蔗園ノ擴張ニ力メ資本金七百五十萬圓ヲ以テ新式製糖工場ヲ設ケ續イテ之ヲ塩水港製糖株式會社ニ合併セシメタルモ東部臺灣ノ開發ニ寄與シタルハ勿論此地ヲシテ今日ノ文化ノ恩惠ニ浴セシメタルモ同社ノ設立ニ負フ所尠カラズ

次テ同社岡田技師ヲ爪哇ニ派遣シ耕地白糖事業ヲ視察セシメ臺南州下岸内工場ニ之カ必要ナル設備ヲナシ六百六十擔ノ試製ニ成功シタルハ實ニ臺灣ニ於ケル耕地白糖ノ發祥ニシテ爾來鋭意品種ノ改良向上ニ力メ又再製白糖ノ先覺者トシテ本島糖業界ニ貢獻シタル功績甚大ナリト謂フベシ

續イテ大正五年五月糖業事業ノ視察ノ目的ヲ以テ南北亞米利加ヲ巡遊シ玖瑪ニ於テ日米資本結合ノ意圖ヲ有シ偶々經濟使節トシテ渡米シタル目賀田男爵ニ托シテ時ノ米國大統領**ウイルソン**氏ニ交渉ヲ試ミタルモ紳士條約ノ爲其ノ實現ヲ見ザリシハ遺憾トスル所ナルモ終始積極的ナル經營方針ヲ以テ或ハ邦人ノ國内企業トシテハ稀ニ見ル外國ニ融資ヲ需ル等他社ノ追從ヲ許サヾルモノ多キハ蓋シ同氏ノ劃策ニ依ルモノナリ歸朝後ハ推サレテ同社社長トナリ爾來數次ノ變遷ヲ迪リ現在資本金六千萬圓、七工場ヲ抱擁スル本邦屈指ノ製糖會社ヲ設立スルニ至レリ尚今次事變勃發スルヤ逸早ク當局ノ燃料國策ニ

タイプライター用紙（石川納）
（日本標準規格 B. 4）

順應シ無水酒精工場ヲ設立スルアリ又新日本砂糖工業株式會社ノ創設等三十有餘年國家的事業ニ携リタル其ノ功績顯著ナルモノアリ同人在社中ニ於ケル特筆スヘキ功績左ノ如シ

一、耕地白糖ノ製造

由來本島糖業ハ齊シク內地精製糖工場ノ再製原料タル粗糖及ビ島內直接消費糖タル黃双ノ製造ヲ主トシ爪哇ニ於ケルカ如キ耕地白糖ハ未タ容易ニ企及シ得ザル所ナリシガ同社ハ苦心研究ノ結果遂ニ四十二年岸內第一工場ニ於テ一部必要ナル假設備ヲ施シ六百六十擔ノ試製ニ成功セルモノニシテ之本島ニ於ケル耕地白糖ノ濫觴ナリトス

其ノ後臺灣糖業漸次發達シ其ノ生產額亦增加スルニ從ヒ一大英斷ヲ以テ本工場ヲ耕地白糖製造工場トナス而シテ本工場運轉ノ初期ニ於テハ「ライムキルン」操作ニ誤ナカラシムルタメ當時糖界ノ權威タリシ「ブリンセンヘヤーリツシ博士」ノ紹介ニテ和蘭人技師「アールシュミツド」氏ヲ聘シ苦心協力ノ結果漸ク白双八千擔其他白車糖三萬五千餘擔ノ產出ヲ見タリ蓋シ耕地白糖トハ粗糖ヲ脫色シテ再製シタル精製糖ト異リ最初ヨリ甘蔗糖汁ニ化學作用ヲ施シテ清澄脫色セシメ直ニ白糖ヲ製造シタルヲ以テ其ノ名ヲ得タル所以ニシテ所謂「プランテーションホワイトシユガー」ナリ今ヤ同工場初メ新營、溪州ノ工場ヲ合シテ白糖一日製造高約二萬擔ニ及ベリ其ノ功績沒スベカラザルモノアリ

二、看天田改良

同社ノ原料採取區域タル臺南地方、高雄地方ノ看天田多ク其ノ地盤ハ重粘ナル堅盤ヲ以テ構成セラレ人畜ノ力ヲ以テ深耕ヲ行フコト困難ニシテ每年一回不安定ナル米作ヲ行フニ過ギズ蔗作ノ振興ハ勿論一般農作物ノ增收上一大障碍ヲナセリ故ニ當地方ニ於ケル土地改良ハ之レガ盤層破壞ヲ以テ第一手段ナリトス卽チ從來各製糖會社ニ於テハ爆藥其他ノ手段ニ依リ屢々盤層ノ破壞ヲ試ミタル

タイプライター用紙（石川納）
（日本標準規格B.4）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

モ徒ラニ多額ノ經費ヲ要シ其效果見ルヘキモノ尠カリキ然ルニ同社ハ種々考究ノ結果强大ナル深耕犁ヲ案出シ大正十四年其ノ製作ヲ英國「シヨンフアウラー」會社ニ命シ現今ノ「ヒースピラウ」ノ出現ヲ見ルニ至レリ

本機ニ依ル看天國改良ハ能ク地下三―四尺ニ在ル盤層ヲ破壞シ雨水竝ニ空氣ノ透通ヲ良好ニシ土壤風化ヲ速カナラシメ有機質肥料ノ施用ト相俟ツテ地力ヲ强大ナラシメ看天田農業ニ一大革命ヲ見ルニ至レリ其功績洵ニ甚大ナリ

三、西沙島新南群島開發

大正六年平田末治西沙、新南兩群島開發事業ヲ計畫スルヤ槇氏ハ本事業カ南支那ニ對スル國策的進出事業タルヲ思ヒ率先之ニ贊同シ私財ヲ投シテ之ヲ後援シ爾來利益ヲ度外視シテ兩群島開發ニ私財ヲ投スルコト優ニ百萬圓以上ノ巨額ニ上ルト謂フ一時昭和四年ヨリ昭和八年迄事業中止ノ止ムナキニ至リタルガ昭和八年其ノ筋ノ内命ヲ奉シテ再ヒ事業ニ着手シ更ニ其ノ强化ヲ計ル爲昭和十一年五月開洋興業株式會社竝同年十一月開洋燐鑛株式會社ヲ創立シテ之カ取締役社長トナリ兩群島ノ開發ニ力ヲ效セリ如斯經營ハ實ニ盡忠報國ノ至誠アルニ非スンバ之ヲヨクスル能ハザル處ナリ本年四月新南群島ノ日本帝國ノ領土トナリシモ一ニ與リテ力アリト謂フヘシ

拓務省

タイプライター用紙（石川納）
（日本標準規格B.4）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別ニ

本人ハ常ニ人物ノ養成ニ趣味ヲ有シ扶掖セル青年、小壯學者尠ナカラズ

又各方面ノ學校、青年修養團等ニ寄附シタルモノ鮮少ナラズ

其ノ寄附額ハ左ノ如シ

東洋大學ニ對シ貳拾萬圓、慶應大學ニ對シ約十萬圓、長岡高等工業學校ニ對シ四萬圓、鄕里長岡中小學及横濱中小學ニ對シ約一萬圓、其他ニ於テモ相當ノ醵出ヲ爲シタルモノアルモ記錄明カナラザルヲ以テ省略セリ

拓務省

タイプライター用紙（石川納）
（日本標準規格B.4）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勲爵
博士

府縣族籍

原籍 新潟縣長岡市殿町三丁目六百十六番地

氏名 槇哲

舊氏名

生年月日 慶應二年十一月十日

年	月	日	經歷	官衙其他
明治二六	四		慶應義塾卒業	
三九	五		塩水港製糖會社支配人トシテ入社	
四〇	三		同社ヲ株式組織トシ取締役ニ就任	
大正五	一二		南滿洲製糖株式會社取締役ニ就任	
六	七		塩水港製糖株式會社取締役社長ニ就任	
八	一		南滿洲製糖株式會社取締役辭任監査役ニ就任	
〃	一〇		花蓮港木材株式會社取締役社長ニ就任	
一三	六		東京製糖株式會社（昭和二年七月塩水港製糖株式會社ニ合併）取締役兼社長ニ就任	
昭和三	三		南滿洲製糖株式會社監査役ヲ辭任	
〃	一〇		塩水港製糖株式會社取締役社長ヲ辭任	
六	三		同社相談役ニ推サル	
八	一七		同社取締役社長ニ再任	
一三	四		新日本砂糖工業株式會社取締役社長ニ就任	

拓務省

履歴書用紙 甲

立案 昭和十四年六月七日
決裁 昭和 年 月 日

宮内省

案

故 槙 哲口

特旨ヲ以テ位記ヲ追賜セラル 昭和十四年六月七日

槙 哲口 昭和十四年五月三十日

叙正六位

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十四年六月七日

宗秩寮總裁

拓務大臣

宮房宿直

三枚目

527

丙發第一〇二九號

一 故 樣 拝

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十四年 六月 八日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

拝啓

宮内省

二號罫紙

328

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp